

# 報 会 窓 同 京 東 高 館

第27号 平成 25 年 2 月発行

発刊に当たって

## 寒い日々、元気にお過ごしを！

会長 大隈 清道

(昭和 29 年卒)



会員の皆様お元気ですか。今期もまた会報発刊の運びとなりました。御寄稿いただきました方々には厚く御礼申し上げます。

ところで、このところ“地球温暖化なんて嘘だろう！”と思いたくなるような寒い日々が例年になく続いています。しかし、厳しい環境はどれも気象だけでないようで、外交面を見れば、日米、日中、日韓、日朝いずれも簡単に解消できないギックシャックが目立ちます。

今回の衆議院選は、またも与野党の激的反転に終わりましたが、その劇的反転の底辺には、国際関係、国内経済、国民生活、社会制度の政策など、多方面にわたる国民の不安・不満の昂揚があったのは確かでしょう。

そんな私たちの不安・不満を払拭してくれる救世主の出現を無理な頼みと分かりつつも、つい願いたくなる昨今です。

予報では、この冬の寒波はまだまだ続く模様、皆様には慎重な御自愛をお続けくださいますようお願いいたします。

# 第31回 定時総会報告

去る平成24年10月13日(土)、標記会員総会は、皇居北の丸近い都心のホテル グランドパレスにおいて、①議題の審議、②講演会、③懇親会の三部構成で行われた。

## 1. 議題審議

大隈清道会長(昭和29年卒)の開会のあいさつの後、横山英和氏(昭和40年卒)を議長に選出し、あらかじめ招集通知書で案内されていた議題について審議を行った。審議は順調に進行し出席された会員諸氏の協力により、すべて承認可決された。

また、出席会員から、近年はパソコン、携帯電話によるインターネット通信が普及している。会としてホームページを立ち上げ、活用を図ることが経費節約も含めて有効ではないかとの提案があった。

これについては、試みとして、会員の奥澤康文氏(昭和47年卒)がインターネットのブログに「館林高校東京同窓会」の項を設けて館林高校のホームページにリンクしている、事務局担当の谷田部和之(昭和35年卒)がFacebookに「館林高校東京同窓会事務局」を設けていることが報告された。

これを踏まえて、本格的にインターネットを活用して行くためには、この分野に詳しい会員の協力を仰いで、新しい仕組みを創ることが提案された。

## 2. 講演会

講演会は、荒井昭氏(昭和27年卒、「震災予防研究会代表」)を講師に、「地震防災よもやま話」のテーマで行なわれた。

荒井氏は、警視庁OBで、現役時代の昭和47年3月「警視庁大震災対策委員会」を管理官として担当、三原山大噴火災害時には3カ月間にわたり現地責任者として対応に当たったなど、防災問題に深くかかわり終生のテーマとして取り組んできている。

豊富な災害研究の数々や、対処実践の取り組みからの話は貴重な教訓ばかり。平成23年3月11日に起こった、東日本大震災の復興もままならない現状ということもあり質問が多く、予定時間を越し、その後の懇親会の席上に持ち越された。

## 3. 懇親会

懇親会は、昨年11月、本校90周年を機に退任した岩瀬弥市前同窓会長に代わって、第6代会長に就任した前山秀樹氏(昭和37年卒)を迎えての会となった。

前山会長は、県立つつじヶ岡公園の城沼の対岸にある、お辻の方の墓所がある曹洞宗善長寺の住職で、邑楽・館林など東毛地区を中心に多方面で活躍中。

前山会長から、伝統ある館林高校同窓会をさらに

発展させ、同窓生の親睦・連携を進めていくことへの抱負、東京同窓会に対しての協力要請があった。

続いて、阿部芳夫校長から、進学率86.9%と頑張っていること、夏に開催されたロンドンオリンピックにおいて、平成16年卒の松本隆太郎氏が、レスリング男子グレコローマンスタイル60kg級で銅メダルを獲得したこと、群馬県下でレスリングが学校対抗戦で優勝、野球部が夏の甲子園出場をした前橋育英高校に順々決勝で惜敗したものの、ベスト8進出、等々、進学校として頑張る中で文武両道に健闘しているという、現況報告をいただいた。

鈴木敏男名誉会長(昭和23年卒)の音頭で乾杯後、旧交を温める同窓生の輪が出来、楽しい時間を過ごし、最後に、新旧の校歌を斉唱して散会した。

## 4. 参加者 40名

(イ) 来賓 10名 阿部芳夫館林高校校長、前山秀樹同窓会長、同窓会各支部長、他校同窓会関係者

(ロ) 会員 30名

## 5. 事業報告、会計報告ならびに決算は総会案内のとおり。予算・事業は下表のとおり。

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	280,962	総会運営費	360,000
年会費収入	450,000	懇親会運営	280,000
総会費収入	320,000	印刷代	320,000
懇親会収入	280,000	通信費	370,000
広告料収入	30,000	交流費	100,000
雑収入	250,038	雑費	100,000
合計	1,611,000	次期繰越金	81,000
		合計	1,611,000

## 事業計画

年月日	事項
平成24年10月13日	第31回定期総会
11月1日	懇親ゴルフ会(第31回)
11月10日	本校同窓会総会参加
12月	役員会
平成25年2月	役員会
2月	第27号会報発行
4月	理事会・観桜会
5月8日	本校同窓会ゴルフ会交流
6月	役員会
7月	理事会・納涼会
9月	役員会

# やっと「エイジシュート」



昭和 25 年卒 中村 茂八郎

ゴルフでエイジシュートを出そうとするには、年齢と技量が、一定の域に達していない限り無理であることは解っているが、“一度でも”という願望は誰も考えることであろうと思う。

私も或いはと考え始めたのは、70 歳を過ぎてからも 70 台のスコアを度々出していたので、冗談に「出す」と口に出したことからであった。しかし、数え年では 78 打と 79 打を出したことはあるが認められず、70 歳代での達成は無かった。

ところが、80 歳の夏にあと 1 ホール残して 75 打となり、最後のパー 5 のホールをクリアすれば 80 打のエイジシュートになる、という場面が訪れたのである。ただ、当日は雷雨模様で第 1 打を好打し、2 打を打とうとしたときに大雷雨となり、急遽ハウスに逃げて待機していたが、雷雨は激しくなるばかりで、結局プレイ再開は不可能となり、「幻のエイジシュート」となってしまったのである。

そんなこともあって、達成願望は満たされないうまでであった。とは言え、80 歳代の体力の減退は、目に見えて如実にスコアに現れ、90 打が切れなくなり半ば諦めかけていた。

ところが、思いがけず平成 24 年 7 月に 81 歳 10 カ月で 81 打が出て、念願達成となったのである。

コースは木曽駒高原カントリークラブで、東京、大阪、名古屋の同業者の交流会でのこと。

当日は、東京からの参加者がなぜか私一人となってしまう、伝統ある会への東京勢の参加者の少なさにいささか困惑し恥かしくもあり、私一人でも東京勢の存在感を示さなければと、真剣に集中したプレイとなった。かつて KGA（関東ゴルフ連盟）や JGA（日本ゴルフ協会）の競技に参加していたころの戦闘モードに火が付いたらしく、好打の連発で、

**エイジシュート (Age Shoot) :** ゴルフの 1 ラウンド (18 ホール) ストロークプレイを、自身の年齢以下の打数でホールアウトすること。公認されるのは、6,000 ヤード以上のゴルフコースとされる。

前半を 39 打で廻った。

後半は、冷静にと思いつつもやはり乱れ、最終ホールでダブルボギーを出したら、又も数え年のスコアになってしまう、という瀬戸際に追い込まれてしまった。

恥ずかしながら、最終ホールでのティアップは手が震えて球が一度でティに乗らなかった。それでも第 1 打を、フェアウェイの真ん中に出してほっとしたが、2 打がシャンクして危うくダブルボギーとなるところであった。幸い、3 打でグリーンを捉えてボギーの 5 打で上がり 42 打、前半の 39 打との合計で 81 打となり宿願の達成となった次第である。やっとのことであった。

ところが、木曽駒高原カントリークラブのフロントティーは残念ながら 5,932 ヤードで公認は無理、しかも東日本大震災後 2 年も経たずで、祝う気にもなれず話題のみにとどめたが、編集者は書けという。そのうち公認される結果を出したいと思うが、さてさて、複雑な気分である。

なかむら もはちろう

82 歳。邑楽郡邑楽町 (旧高島村藤川) 出身。東京都大田区在住。中央大学法学部卒。辯護士。趣味：ゴルフ、俳句。



## 同期の仲間「三一会」

昭和 31 年卒 江森 嘉昭

平成 24 年 12 月、「三一会」(会員 9 名)は埼玉県越谷市内で忘年会を行った。文字通り昭和 31 年 3 月館林高校を卒業、爾来社会人として第一線で仕事に励んでいた間、いささか疎遠であったわれわれは、60 歳を過ぎて退職者が増えるにつれ仲間との交流が復活した。

10 年前に石村光幹事の下に、千葉県・館山で久しぶりの「三一会」を開催した。以後毎年温泉旅行を慣行している。

不思議なことに、同じ町や村の仲間は少ないのにどうしてこうも長く会が続いているのか、オカシナ仲間である。

話は逸れるが、今回の投稿の理由を書かせてもらう。館高東京同窓会事務局の谷田部君の実家と私の実家が、館林市大街道で至近の距離にあり、彼のお父さんが、実家にお茶を飲みに寄ってくれていたのをよく記憶している。しかもまた、お互いの住まいが越谷市内で、かなり近くの住所であったのは何か不思議な縁を感じる次第。もちろん、年齢が離れているので高校時代は交流がなかったが、昨年春、彼に電話をして上記の事実が判明、お蔭で、平成 23 年春のホテルグランドパレスでの観桜懇親会には、時崎庸二君、江原富男君と出席した。

昨秋 11 月、この会報への投稿を依頼され、われわれの忘年会のことを話したところ、そのことを紹介するのがよい、ということで今回のこととなった次第だ。

### 「三一会」

荒川武雄(旧三野谷村出身・群馬県大泉町在住)、石村光(旧佐貫村出身・千葉県山武市在住)、江原富男(旧千江田村出身・千葉県八千代市在住)、江森嘉昭(旧多々良村出身・埼玉県越谷市在住)、清水保政(旧館林町出身・千葉縣市川市在住)、玉井栄一(旧千江田村出身・館林市在住)、時崎庸二(旧多々良村出身・埼玉県春日部市在住)、萩原昌夫(旧館林町出身・館林市在住)、若江重夫(旧六郷村出身・さいたま市在住)

現代の高校生には想像外だろうが、われわれの高校生時代は、砂利道を自転車に乗って佐野市にある唐沢山まで行き、帰りには渡良瀬川の河原で相撲をとって遊んだものだ。それぞれが進学してからは、夏休み、冬休みに唯一の遊びとして麻雀に没頭、私も会場に実家を度々提供していた、という懐かしい記憶が残っている。

大学卒業後、それぞれ大手の会社で仕事を全うし仲間もいるが、いま全く平等でお互いバカ呼ばわりで遠慮なし。特に清水保政君など、館林中学校(現館林第一中学校)卒業後、東京の高校に進学したので、館高同窓生でもないのに、まるで館高OB気分、出来れば、いささか館高への寄付を願えればと思っている。

半数以上が後期高齢者となった今、まだまだ仲間と逢えば話が尽きることがない。今回の忘年会でも、出来れば、2月には2泊でどこかに出掛けようと話しあっている次第。館林高校のお蔭で、われわれは貴重な仲間が得られたことを感謝している。

おっと忘れる所、今回の忘年会に参加できなかった1名を紹介する。萩原昌夫、館林の老舗「魚患寿司」(館林市本町 Tel 0276-72-0483)店主。老体にムチ打って営業している。宜しくお願いします。



←

奥で立っているのが玉井、そこから時計回りに、時崎、清水、江原、江森、荒川、若江、石村の各氏

平成 24 年 12 月 6 日。越谷市内日本料理店にて

## かくして「ゴルフドクター」 となる



昭和 25 年卒

小暮 堅三

東京都江戸川区在住。  
邑楽郡千代田町（旧永楽村）出身

昭和 39 年の東京オリンピックの年である。その頃、私は青年外科医として順天堂病院の外科に勤務していた。もちろん、無給研修医だったので生活して行くためには、アルバイト等で生活費を稼がなくてはならない。そのため、民間病院の夜の当直医や出張手術などで相当無理な毎日を送っていた。

その無理がたたって、大学の健康診断で肺結核と診断され、8ヶ月間の静養が言い渡された。それは、私にとっては最大のショックであり、正に途方に暮れた1年でした。幸い、その時はストレプトマイシンが良く効き、1年間の休職で現場復帰することが出来た。

しかし、現場復帰しても結核の治った後では何の楽しみも無く落ち込んでいた所に、先輩からゴルフをやらないか、と誘いがあった。その頃は未だゴルフは一般的なスポーツではなく、上級クラスのお遊

び程度のスポーツであった。

早速、練習所通いが始まった或る時、新聞社の方から「ゴルフと健康」について原稿依頼があった。私は大学のある有名教授を紹介した。私も読んでみたが優等生の原稿を書ってくれた。ところが、ゴルファーは全然興味を示してくれなかったとのこと。

そこで新聞社は、「ゴルファーであって医者でなければ書けない原稿」を私に書けと言ってきた。そこで私が考えたタイトルが、「ゴルフは性欲を亢進する」というタイトルであった。

これは、まじめなゴルファー100人の聞き込み調査を分析した原稿だったのだが、これが大受けして爆発的な話題になり、スポーツ記者やゴルフ雑誌の編集者が殺到し、「こういう原稿が欲しかったのだ」との事。

そんなことが縁で、週刊ゴルフダイジェスト誌に20年間連載することになったのである。連載を始めて2～3年頃と思う。日本女子プロゴルフ協会から顧問医になって欲しいとの要請があり、ゴルフドクターとして出発した。その当時は、腰痛や肩の痛みなどを訴える、現役のプロ選手がよく相談に来られたが、最近は年間で数名程度となり、むしろ、プロ選手よりも、アマチュアのクラブチャンピオン級の人の相談が多くなってきた。

著書 ・ゴルフ健康管理 82 の秘密

・ゴルフで早死にする法

・命と引き換えにゴルフがうまくなる法  
(その他多数)

機会があれば面白い裏話など話してみたい。

## 観桜懇親会開催のお知らせ

館高東京同窓会は、会員諸氏との懇親・交流を目的に下記次第による観桜懇親会を開催します。会場のホテル グランドパレスは、皇居北の丸公園、靖国神社に近く、中でも皇居お堀端の千鳥ヶ淵の散策には大変な人出がある、都内有数の桜の名所まで数分です。この機会に観桜散策を試みてはいかがでしょうか。

春のひと時、ぜひ先輩、同期生、後輩入り混じっての懇親会にお気軽にご参加下さい。

日 時 平成 25 年 4 月 6 日 (土) 午前 11 時～午後 2 時  
会 場 ホテル グランドパレス (1F レストラン カトリア)  
東京都千代田区飯田橋 1-1-1 TEL 03-3264-2401  
交 通 東京メトロ東西線、都営地下鉄新宿線・九段下駅 (3 分)、JR 総武線飯田橋駅 (7 分)  
会 費 4,000 円 (当日受付)  
申込先 館高東京同窓会事務局 〒343-0021 越谷市大林 74-5 谷田部 和之方  
TEL 048-974-6012 FAX 048-974-6680  
Eメール kyatabe@tcat.ne.jp  
申込締切 平成 25 年 3 月 24 日

# 「内向き志向」の日本人？！

＝上海日本人学校の現場から＝



昭和 39 年卒

小暮 剛一

(上海日本人学校運営委員会委員  
長、芝浦工業大学特別顧問)

2011年4月、上海に、日本人学校として世界で初めての高等部が開設されました。このことをきっかけとして世間の一部で「日本人学校」について注目が集まり、また何度かマスメディアにも取り上げられる、という事がありました。従来、日本人学校では前例のないことですが、それまで上海とは何の関わりもなかった私が専任の運営委員長を務めさせていただいております。今回の原稿依頼に際しては、一部の方々には存在は知られても、その実態はほとんど知られていない日本人学校について何とかしたい、という思いが日頃からありましたので、一人でも多くの人々に現状をお知らせしご理解を得る機会としたいと思い、お引き受けした次第です。

## 1. 上海日本人学校の概要

昭和 50 年、在上海日本総領事館の 1 室に 7 名の生徒を迎えて上海補習校としてスタートし、昭和 62 年 4 月に上海日本人学校となり、現在では虹橋校舎（小学部）、浦東校舎（小・中・高で共用）合わせて 3,200 名強の児童・生徒を擁する世界一大きな日本人学校になっています。そして先にも触れましたが世界で初めての高等部の一期生がいよいよこの 4 月最終学年を迎え、初めての大学入試に取り組むこととなります。この高等部には私たちを支援し、応援して下さる 12 の協力大学会議（明治大学、立教大学、法政大学、上智大学、中央大学、東京理科大学、芝浦工業大学、日本体育大学、南山大学、中京大学、関西学院大学、同志社大学）があることも特徴の一つとなっていて、このことは大変心強く深く感謝しております。

また上海日本人学校では、創設以来増え続ける生徒を収容するための校舎の確保、必要とする教員数の確保に追われ続けており、現在 2 つの校舎が有りますが（各校それぞれ約 2 万㎡）何れも満杯状態で、

高等部の開設も加わって校舎不足は深刻です。より大きい土地の獲得に向け努力しているところです。

## 2. 世界の日本人学校

日本人学校は、日本企業の海外進出に伴い、各地の駐在員の子弟の小・中学校課程の教育を目的に設置されたもので、その設置形態は、大使館・領事館付属であったり、商工会議所付属であったりと、それぞれの地域の特徴によって異なりますが、校長以下教諭は文科省から派遣され（目標は必要教員数の 80%）、校舎建設費等は外務省領事部から 1/2 の補助等受け、残りは自前の資金調達（授業料等）によって運営されている、いわば半官半民のような「私立学校」であるということが出来ます。

設置形態に違いはあるものの、世界中で共通して言えることは、日本人学校の生徒数は、進出している日本企業数・その社員数に連動しているということです。当然のことながら、日本と相手国との間の経済活動が活発になれば駐在員も増え、停滞すれば減るというように、世界の政治・経済の動向にそのままイコールで連動しています。従って定常的な生徒数確保は難しく、ここに日本国内では考えられない運営の難しさがあります。

では、現在世界の日本人学校の児童・生徒数はどうなっているのか、次に記します（この数は上記の理由により日々動いています）。

2012年1月現在、世界 51ヶ所 88地域に合計 19,811名が日本人学校に通っています。

その内訳は、欧州地域 2,796名、アジア地域 14,505名、そのほかが 2,510名。つまり、日本人学校に通う生徒はアジアに集中していることが分かります。何故このようなことが起こるかといえば、欧州地域の赴任者の子弟の多くは現地校かインター校に行くからです。さらにアジア地域を国別に見ていくと以下の通りです（生徒数は 2012年1月現在）。

- ・韓国 409名（ソウル、プサン）
- ・ベトナム 572名（ホーチミン、ハノイ）
- ・インドネシア 943名（ジャカルタ、バンドン、スラバヤ）
- ・シンガポール 1,775名
- ・マレーシア 876名（クアラルンプール、ペナン）
- ・タイ 2,778名（バンコク、シラチャ）
- ・中国 6,948名（香港、北京、上海、大連、広州、天津、青島、蘇州、杭、深圳）
- ・台湾 1,081名（台北、高雄、台中）。

この数の多少を別の角度から見ると「日本の ODA をはじめとした各種経済援助対象国」と重なることが分かります。

### 3. 日本の若者はいま

若者の間に内向きの志向が蔓延しており、海外に興味を失っている、と言われて久しくなりますが、そのことを裏付ける数字が昨年 8 月 18 日の読売新聞に掲載されていました。21 世紀初頭、中国、インド、韓国、日本から米国への留学生数は 5 万人前後で各国に差はありませんでしたが、この 10 年間で激変します。中国 157,000 人、インド 103,000 人、韓国 73,000 人。日本だけが減少し 21,000 人です。専門家によれば、「日本における就学年齢者の減少」「アメリカにおける学費の高騰」「日本の経済の停滞」「就職活動時期への影響」「大学の単位認定の問題」等の原因が挙げられていますが、この「若者の内向き志向」は、国際人としての教育の必要が叫ばれるなかであって、好ましい傾向といえません。その必要性は、すでに小中学校の段階からいわれているのです。異質の風土・文化・伝統・習慣にふれ、肌身で感じる最善の方法の一つは、現地へ赴くことです。日本人学校というものをそういう視点から見直してみるとどうでしょうか。

### 4. 異国の地にあることを生かす

日本企業の海外進出に伴い、その子弟の教育問題を解決する為に滞在している 2～3 年の期間の教育を保証することが、日本人学校のそもそもの設立趣旨です。そこでは日本と過不足ないカリキュラムを実施し、帰国後の日本の教育へのスムーズな復帰を保証することが、最大の任務と認識され、そうした方針に基づいて現在も運営されています。

私たちは、日本の教育、特に学校における日常活動や行事を通じて人格を育むことに関して、地域の地域社会に良い影響を与えつつ一定の評価を得ている、と思っています。しかし、これで良いのか。現地の子供たち、人々との交流、特に国際化・国際理解に繋げる行事等まだまだやるべきことがあるのではないのでしょうか。

このアジアで最大の国際都市のひとつである上海の地にあること、望めば手の届くところに日本とは全く異質の文化が息づいていることを、より多く教育現場の活動として取り入れるべく努力をし、そのことにより、児童生徒が日本にいては、決して経験しえない、味わうことが出来ない充実した異文化体

験をし、結果として国際的な視点を持ちながら、「外向きの志向」を備えて羽ばたいてくれたら、と願っています。

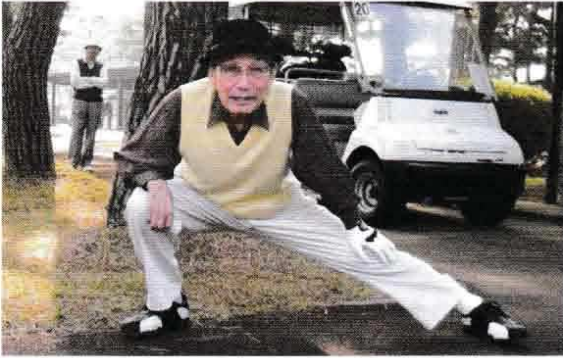
そのために私たちはより広い土地を確保し、新しい教育プログラムに挑戦しなければならないと考えています。具体的には、日本への留学を希望し、あるいは既に留学の決まった中国の生徒を受け入れる「渡日前教育機関」(中国と日本では年間の開校日が 6 ヶ月ずれていることを積極的に活用する案)や「日本人学校の経営するインター校の併設」です。

このような、異質の教育機関、異質の学生を内部に包含することにより、児童・生徒に今まではできなかった日常レベルの異文化交流の場を確保し、さまざまな体験が出来る環境を是非とも実現したいと願っています。そのためには政府の認可、用地確保、資金確保等問題は多々ありますが、「日本人学校教育の改革」は、規模において世界最大となった上海日本人学校の責務でもある、と考えたりしています。

### おわりに

最後に個人的な私の館林における生活に簡単に触れ、筆をおきたいと思います。私は中学 3 年の 2 学期の終わり近くに東京・中央区立明正中学校から館林に移り、父親と二人の生活が始まったのでした。三野谷の大きな田舎屋から六郷中学に通うということで、朝食で使った食器を水につけ置き、帰ってきたらそれを洗い、コメを砥ぎカマドで炊き、煮干して味噌汁の用意するのが私の役割でした。そうこうしていると、父親が夕食、翌日の朝食・弁当などのおかずを買って来る、といった毎日でした。井戸端の炊事、カマドでの煮炊き、五右衛門風呂の湯沸し、どれも慣れない生活で、生まれて初めて手の甲にシモヤケが出来ました。恵まれた環境ではなかったのですが、田舎生活が新鮮で、結構楽しかったと記憶しています。館林高校の 3 年間は簡単には語り尽くせない多くの経験をする事が出来、今の自分の原点はここにある、と思うところ少なくありません。当時の先生方をはじめ多くの先輩、後輩、友人たちに感謝申し上げるばかりです。今であれば多分卒業できなかったのでは、と思う事ばかりです。

部活動は一年の時に JRC (青少年赤十字) 活動と弁論部の活動に熱心に取り組んだと記憶しています。が、その後は在籍していただだけの(真面目に取り組まない) 3 年間でしたが未だに多くの方々との親交があり、大切にしています。



## 90歳を越して ゴルフを楽しむ

昭和13年卒 新里 武男

東京都豊島区在住。旧館林町出身

平成24年11月、森光子さんが亡くなりました。二度見たあの放浪記を思い出し、誠に残念でたまりません。同年齢（大正9年生まれ）の92歳でした。これで周囲や知っている年長者は、中曽根康弘元総理くらいになってしまいました。

館高東京同窓会には、中村茂八郎（昭和25年卒）さんの誘いで参加するようになり、ゴルフコンペにも参加してきています。昨秋のコンペの時に、幹事から最年長者での参加ということから、表題のテーマで書けと依頼されました。

これは、第一に丈夫な身体を与えてくれた両親に感謝です。加えて、今は病弱ですが長い年月、毎朝一杯のミルクを準備してくれた家内に「ありがとう」と言わざるを得ません。私自身は、何でもよく食べ、毎朝、入浴後ストレッチとぶら下がりやを欠かさない生活を送っています。

ゴルフを始めたのは、結婚10年目の37歳の時、今から55年前です。取引先の先輩に勧められ、半年間の練習後、霞ヶ関カントリー倶楽部で初ラウンドしました。その時のスコアは今とほとんど同じでした。グリーンを行ったり来たりで「まあゆっくりやりなさいよ」と言われたのを覚えています。なぜこんなに続いたのでしょいか“奥が深く、楽しい”からです。

去る11月1日、紫カントリークラブあやめコースで行われた東京同窓会の秋のコンペ。第1組でご一緒したT氏、距離短めの中ホールでの第1打はフェアウェイのど真ん中、小生の3倍近くの長打で、グリーンヘチコンのボールを見つけてピックリ。しかしホールアウトしてみれば、スコアは小生と同じダブルボギーの申告。「あれから、どうすればこうなるのですか」と大笑い。

“ゴルフって奥が深く、楽しい”。年齢をとっても出来るこんなスポーツはありません。

この時の56（ゴロ）、56（ゴロ）スコアでは偉そうなことは言えないのですが、せっかくの機会なので、私のゴルフ歴を略記し、成る程と思われた方にはぜひ参考にしていただければと列記します。

1. 全てのショットの前にイメージづくりをしっかりと
2. グリップは指で、両脇は締め
3. 肩は廻すがテイクバックは小さく
4. フォローは大きく振り抜きましょう
5. フルショットは左腕で、右は大怪我、ミス元（右利きの場合）
6. リズム、テンポはゆっくりスムーズに
7. グリーン面は登る前に低所からしゃがんで見る
8. パッティングは30cmオーバー気味に打つ
9. 2m位の入れごろ外しごろのパッティングは必ず音を聞け
10. もう一度旗とボールを底辺とする二等辺三角形の頂点からしゃがんで見る

先日、ゴルフネットワークチャンネルで歴代アメリカ大統領のプレーを見ました。ハーバード大学ゴルフクラブに属していたケネディ元大統領が最も上手く、自分達でルール造りをして楽しんでいる大統領が何人も居ました。アイゼンハワー元大統領は、ホワイトハウスの庭にグリーンを造らせパッティングを楽しんでいました。こんな大物総理大臣が欲しいですね。

“奥が深く、楽しいゴルフ”何時まで出来るかわかりませんが、出来る限り続けて行きます。

- ゴルフ歴 55年
- ハンデキャップ 5まで
- ホールインワン達成 1回
- クラブチャンピオン 3回  
(シニア 1回、グランドシニア 2回)
- エイジシュート 未達
- ベストスコア 70 (大根カントリークラブ西コース)



## 楽しいプランタ菜園



昭和 40 年卒  
横山 英和

埼玉県川口市在住。  
邑楽町（旧長柄村篠塚）  
出身

私は、平成 22 年 3 月に電源開発（株）を定年退職しました。出身地の邑楽町狸塚には親から相続した土地や家があるため定年後は、田舎で家庭菜園をのんびり暮らすつもりでしたが、いざその時を迎えようと、都心に近く利便性の良い川口を捨てきれずなかなか決心はできませんでした。

そこで、田舎と川口の二重生活を楽しむ事にしました。しかし農地は長期間休耕にしていたため荒れ放題で原野になっており、農業をするには開墾をしなければならず、結局、軒下でプランタ菜園を楽しむことにしました。

田舎には、週末から週明けに留守宅の管理とプランタ菜園を楽しむため、毎週家内とドライブを楽しみながら通っております。田舎での生活は、季節にもよりますが日中は殆ど外で樹木の消毒・剪定、庭の草取り・芝刈、家庭菜園を行います。しかし、野菜の栽培が一番時間を要します。家内は主に留守宅内の掃除・片付け・洗濯・食事等ですが、時には庭の芝刈りや落ち葉の清掃等を手助けしてくれます。また、私は時には退職前に 1 年間男の料理教室に通った経験で、取り立ての野菜を料理することもあります。

家庭菜園は、軒下にプランタを並べて各種野菜栽培

を楽しんでおりますが、小さなプランタでは物足りなくなり、ホームセンターで購入した材木でコンテナ（長さ 1.8m、幅 0.8m、深さ 0.5m）を作り、大型プランタとして、根菜野菜作りにも利用しております。

プランタのメリットは、畑がなくても菜園が可能、農業機械不要、畑に行く必要がなく朝晩管理がしやすく新鮮な作物を食べる直前に収穫できる等ですが、庭土だけでは足りず、新たに 2 トンダンプで土を購入しました。

反面デメリットは、プランタの土が必要、ゴボウのように長い作物は無理、土が少ないため肥料もちが悪い（やりすぎると肥えやけ）、根詰まりし易くまた水遣りが必要になります。特にウイークデーは留守のため、水切れしない様にホースを水道に接続して自動タイマーをセットしております

これまで、樹木の剪定は自己流でおこなっていましたが、菜園方法は全く知識もないため、これらの基本知識修得のため、川口市主催の家庭菜園、樹木の管理等の講習会や、毎週日曜日の NHK の趣味の園芸で知識の吸収に努めております。

最初の年は手探りでテキストを参考に土作り・種まき・苗の植付け・手入・追肥等に苦労しました。特に土壌は野菜にとって一番大事のため、各野菜に適する酸度や連作障害の影響度の強弱を調べ、野菜に適した土作りに努めておりますが、中々苦労しております。

土を有効に利用するため、芝生にブルーシートを敷き、古土を乾燥し振るいにかけて残渣を取り除き新たに腐葉土・堆肥や苦土石灰等を混ぜ連作障害にならない様注意しながら再利用しております。また手作り肥料として、落ち葉を 1 年間積重ねておくと立派な堆肥に変化する事や、樹木の剪定した枝を燃やした灰はカリ肥料として使用できこと等が分かり、全て利用しております。

現在は、果樹もプランタで栽培を始めましたが、野菜と異なり、植えてから収穫まで数年を要す為今後の収穫が楽しみです。これからも新しい野菜（スイカやメロン等）をプランタで栽培したいと思っています。

### 年会費納入のお願い.....

平成 25 年度（平成 24 年 10 月～平成 25 年 9 月）の年会費 3,000 円を未納の方は、①氏名、②卒業年、③住所・TEL、を明記していただき下記口座に送金をお願いいたします。

・郵便振替 加入者名 館高東京同窓会

口座番号 00160-8-773981

## アクティブに楽しんでいます



昭和30年卒  
**伊井 恒夫**

埼玉県富士見市在住。  
 邑楽町(旧高島村秋妻)出身

40年以上建設業界で仕事をしてきました。リタイヤして10年以上になりますが今でも家の営繕工事を手掛けています。

趣味は一にゴルフ、二に邦楽(尺八演奏)、三に演歌(メロディーを尺八演奏)、四にハワイアン音楽、JAZZ(特にハワイアンウクレレ楽器)と種々取り組んでいます。

ゴルフはホームコース(鳩山カントリークラブ他)の競技会に殆ど参加しています。また、同窓会コンペでは春の板倉ゴルフ場、秋の東京同窓会単独コンペも欠かさず参加です。大勢の方々とお会いし、様々な話題に接することができ、楽しい時間を過ごせます。

尺八は半世紀修練して今でも継続して練習しています(都山流の井藤麗山尺八楽研究所門下生)。平成24年11月18日には、東京・銀座ブロッサムホールで一門の演奏会が行われ出演しました。普段は地域の方々と老人センター、医療センター等に出かけ、演歌のメロディーを尺八で演奏するなどの慰問演奏会を行っています。

ハワイアンは、慶応ボーイでハンサムな大橋節夫とハニーアイランダースに魅了され、古希になってからウクレレに再チャレンジしています。

人生は多くを楽しみ、健康に留意して活動している日々を過ごしています。

## サラリーマンの棚卸し・・・

昭和51年卒 **河村 博**

ホテル グランドパレス勤務。東京都世田谷区在住。旧籠林町出身



東京の大学を卒業し、現在の国際シティホテルに入社したのが30数年前。一貫して人事・労務畑を歩み、人事制度の見直しや社員研修などに悪戦苦闘する齢40を迎えた頃、ある日、ふと「俺の人事・労務の知識、能力は世間で通用するの？」との疑念が去来しました。即ち、サラリーマンとして「知識・能力の棚卸し」が必要なのではないかと。それまで、労働省主催「労働大学」への夜間(6ヶ月)通学や、労働衛生関係の国家資格である「衛生管理者」取得など、それなりに知識の吸収に努めて来たつもりでしたが、更なる知識や能力のアップを目指すべきではないかとの思いです。そこで以前より気になっていた人事・労務の国家資格「社会保険労務士」取得へのチャレンジを思い立ったのです。

そうはいっても、この資格は労働関係法令5科目・社会保険関係法令3科目を合わせ全10科目の試験を一日(午前・選択問題40題、午後・択一問題70題)掛けて行う難関資格で合格率が一桁台と言うものでした。

合格には、学習時間が最低1000時間以上(1日2時間でも1.5年掛かる)必要だと当時から言われており、私の場合、ほとんど独学でしたが、何とか3年目で取得できました(年1回の試験なので不合格の翌1年間、気力維持が大変でした)。40歳半ばでの試験勉強は精神的にも肉体的にもハードでしたが、合格した時の達成感は大きく、これを契機に、仕事にも自信が持てるようになりました。

その後、司法改革で弁護士独占の斡旋代理権が一部、社労士(民間の労働紛争解決機関=ADRのみ)へ与えられ、その資格(特定社会保険労務士)も取得することが出来ました。

ここ数年の間、母校の明治大学で学部生には「個別労使紛争の判例解説」、夜間社会人向けには「経営労務」に関する講義機会を頂き、やっと「世間で通用するレベル」に近づいてきたかな?と思えるようになりました。

<p>テクニカルコーディネーター</p> <p>建築家</p> <p><b>大隈 清道</b> (29年卒)</p> <p>〒273-0022 船橋市海神西 1-1193-1-1006 電話 0474-33-6790</p>	<p>館林高等学校東京同窓会名誉会長 群馬県人会連合会会長代行・副会長 上毛倶楽部副理事長</p> <p><b>鈴木 敏男</b> (23年卒)</p> <p>連絡先 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-55-7 ナナヨービル 七陽商事株式会社 電話 03-3663-7740</p>
<p>財団法人 神津牧場</p> <p><b>岩崎 充利</b> (29年卒)</p> <p>自宅 〒177-0051 東京都練馬区関町北 4-21-10 電話 03-3594-2808</p>	<p>葭葉法律事務所</p> <p>辯護士 <b>葭葉 昌司</b> (27年卒)</p> <p>〒106-0031 東京都港区西麻布 3-21-20 霞町コーポ 903号室 電話 03-6447-0446 FAX 03-3403-0675</p>
<p>学校法人 関西外国語大学 関西外国語大学・大学院 関西外国語大学短期大学部</p> <p>教授 <b>内田 信也</b> (30年卒)</p> <p>自宅 〒177-0044 東京都練馬区上石神井 1-3-16 電話 03-3594-1173</p>	<p>相澤・藤井法律事務所</p> <p>辯護士 <b>相澤 建志</b> (36年卒)</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座 7-2-22 電話 03-3574-0880(代) FAX 03-3572-0028 E-mail aizawa-1-o@nifty.com</p>
<p>株式会社 サービス経済研究所 グローバルアライアンスコンサルタントサービス 日本・ネパール親善協会</p> <p>代表取締役 <b>山岸 正</b> (36年卒)</p> <p>〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-14-12 本多ビル 電話 03-6912-7221 FAX 03-6912-7223 E-mail hhe01366@nifty.com</p>	<p>株式会社 キャノン美容院</p> <p>代表取締役 <b>浜田 邦夫</b> (39年卒)</p> <p>〒171-0031 東京都豊島区目白 3-4-11 電話 03-3953-0951</p>
<p>ホテル グランドパレス</p> <p>取締役 <b>河村 博</b> (51年卒)</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-1-1 電話 03-3264-1111 (代)</p>	<p>小林公認会計士事務所</p> <p>公認会計士・税理士</p> <p><b>小林 功一</b> (54年卒)</p> <p>東京事務所 〒123-0851 東京都足立区梅田 8-5-6 電話 03-3880-2187 FAX 03-3880-2138 群馬事務所 〒370-0603 邑楽郡邑楽町中野 3013-14 電話・FAX 0276-88-1844</p>

## 同窓会は眠れる都市鉱山である

その2

## 「農林業とエコツーリズム」

昭和45年卒 奥澤 康文

これを作成中、日頃関与している自然素材の『もみからエコボード』が、NHK テレビ『おはよう日本』で全国放送（平成24年11月27日）された。日本全体で、毎年200万トン発生している刳殻は厄介な農業廃棄物だが、自然エネルギーの一つで、有効利用しない手はない。

## ■同窓会に参加する人、しない人■

2年前、高校と大学同窓会に初参加し、実際に活動する人は少数派だとわかった。しかし、私は考え次第で、諸先輩の知恵や人脈を継承する、貴重な「都市鉱山」になり得ると思う。

社交の苦手な私が、敢えて同窓会に入り効果を出せば、参加を逡巡している同輩・後輩にも少しは朗報になるのでは思い、僭越ながら寄稿させて戴いた次第です。

## ■農林業とエコツーリズム■

◇これは環境と観光との連携で新産業を創出すること。

日本の木材資源の蓄積量は約50億 $m^3$ 、この有効活用が喫緊の課題で、適度に伐採しないと山が荒廃し、人間の生活も危機に瀕する。私が木材業界紙にエコ関係の雑文を連載中で、この縁で人脈が広がっている。



(株)シェルター。日本初のKES構法で同社の原点。山形県寒河江市。1974年完成。

◇環境先進国のドイツに比較すると乖離が余りに大きい。森林、木材産業のGDPは、ドイツは26兆円（森林率32%）、日本は0.2兆円（森林率66%）。ドイツでは年間で日本の3倍の木材を生産し、雇用者数は132万人。因みに自動車産業は75万人。

◇林業・森林を通じ、都会の人と田舎の人がお互いに恩恵を得る機会を創造しようとの発案で、現在に至る。時間はかかるが、発想の転換と工夫で新たな仕事や産業が生まれる好機だと思う。今年は何処かでイベント等を開催する試みです。才色兼備の林業女子会（AKB 48の林業版？）の協力を得て拡大中で、今後がとても楽しみです。

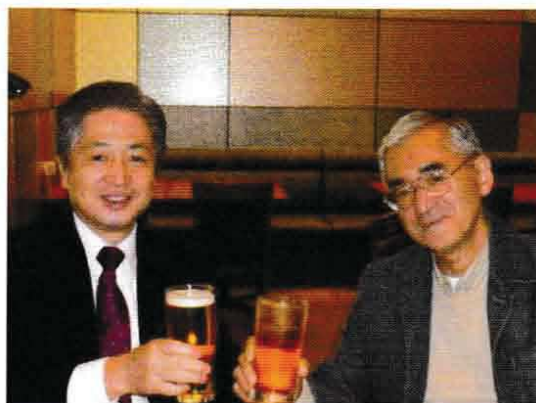
◇日刊木材新聞（2012年11月29日）に、「2000 $m^2$ 超の木造園舎建設」の記事が出ていた。福岡県粕屋郡須恵町で構造躯体にKES構法（(株)シェルター：山形市）が採用された。木造ながら、27m超のスパンを実現した空間設計、構造材等に約340 $m^3$ （合板除く）の木材が使用された。

また、東日本大震災の津波にも耐えたことで知られるKES構法が採用されたことから、地域関係者の注目を集めている。12月1日に(株)シェルター本社を訪問し最先端技術を見学した。木材の有効利用は価値のある素晴らしいことだ。今後は、日本産木材をより多く使用することが林業や森林を元気にさせ、地域の活性化にもなる。

## ■2012年 私の同窓会通信ベスト10■

① 9月、館高同級生の小野田元伸君（S45年卒）と40年振りに再会、多年の風雪を語り合う。彼は上場メーカーの常勤監査役（工学博士）として活躍中である。

② 10月、新潟大学同級生の三上君（現ミシガン州在住）と1年振り再会。彼は海外駐在歴が20年以上、大手メーカーの海外法人社長等歴任退職後、米国で社会奉仕中。



私（左）と三上君（右）（現在米国ミシガン州在住、青森県の弘前高出身）。再会を祝して乾杯。

③ 7月、娘の結婚で25年振りのハワイ旅行。新郎側の伯父の知人に、私の大学時代の先輩がおり吃驚、人生の奇遇を痛感。直後、太田先輩に35年ぶりに再会。

④ 8月、1月開設したFacebook上の高校と大学同窓会HPに、国外からのサイバー攻撃受け閉鎖。残念だが情報化社会の光と影を痛感。

⑤ 9月、母校の新潟大学農学部を36年ぶり訪れ在職中の先輩等との旧交を温めた。同日、新潟市内の企業、市役所、県庁等の先輩・後輩を表敬訪問。

⑥ 1月、40年振りに館林高校を訪問。冬枯れの正月休みだった。何もかも懐かしい。

⑦ 1月、館林高校東京同窓会ブログを開設。本校同窓会のHPができるまでの暫定版。

⑧ 6月、東毛3高（桐生高校、太田高校、館林高校）の東京同窓会交流会は秀逸だった。

⑨ 12月、館林女子高東京同窓会事務局長の川島佳子氏の卓越したIT活用力に敬服。

⑩ 12月、業界紙連載中の私の『同窓会通信』を



自然素材「もみがらエコボード」。(新潟大学農学部)

見て声を掛けられることがあり光栄だ。

☆

最後に、私の夢だが『農林業とエコツーリズム』展開の可能性が見えてきた。館高創立100周年迄には成功させたい。今後も投稿機会があれば、中間報告をさせて戴きたいと思う。

## でかんしょ節



昭和22年卒

田口 正明

東京都国立市在住。

旧館林町足利町出身。

むかしの高等学校の学生の中には、黒のマントや高下駄を履き、学生帽を靴墨で塗り、異様な姿で、でかんしょ節などを放歌高吟しながら街を闊歩するものがいた。

女子供も知っているでかんしょ節は、丹波篠山の民謡で、盆踊りの歌である。旧制高校生が、この盆踊りの歌詞をいたずら心で、哲学者のデカルト・カント・ショーペンハウエルの頭文字をとって、でかんしょ節に書きかえて熱唱した。これが爆発的にヒットし全国に広まった。地方の民謡が地方区から全国区に昇格した、というわけだ。

最近では、でかんしょ節にヒントを得て、秋葉原駅周辺でAKBソングが元気だ。秋葉原の頭文字をAKBに置き換え、オジサン族にパワーを与えている。

旧制高校生はバンカラ学生であったが、国家意識は旺盛で、「次の世代は俺たち学生が担う」という意識が強かった。この意識は寮歌にも反映された。旧制高校は全寮制で、このため寮歌が盛んに歌われ

た。「日本の将来は俺たち世代が背負って立つ」という意識は、寮歌にも反映されていたのである。

理想の園は遠くとも  
輝く星の黙示あり  
現世の涛は荒くとも  
憂いを分かつ友あれば  
尊き天職を守りつつ

八重の潮路を分けゆかん（旧制六高の寮歌）

むかしの高校や大学には、校歌・学生歌・逍遙歌・応援歌・寮歌などがあつた。校歌では早稲田大学の「都の西北」がよく知られている。学生歌では「琵琶湖周遊の歌」や「惜別の歌」が挙げられる。

惜別の歌は、第二次世界大戦の戦時中召集令状により出征する学友を送る送別の歌として作曲された。作詞は島崎藤村である。若菜集の高楼（たかどの）からとられた。嫁ぐ姉とそれを見送る妹とのせつない歌詞のうち、「悲しむなかれわが姉よ」のくだりが「悲しむなかれわが友よ」と替えられた。

惜別の歌は戦後、歌声喫茶でよく歌われ、大ヒットした。数ある学生歌として、また、逍遙歌として優れた歌である。

日本寮歌祭は、戦後の復興が一段落したころにスタートした。時を同じくして、戦友会もスタートした。両者とも後継者がなく未亡人や学生が駆り出されるようになった。それも長く続かず解散となった。この機会に、旧制高校と新制高校との長所短所を比較検討し、そろそろ教育改革の時期に来ているのではないかと思うこの頃である。

## 多忙な出張先での思い出



昭和 47 年卒  
杉田 利雄

東京都新宿区在住。  
旧館林町出身

経営コンサルタントという職業柄なのか、それとも性分なのかわかりませんが、出張の多い日々を過ごしています。

この原稿を書いている 2012 年 12 月を例にとると、月初めに福岡に 1 泊し翌朝には帰京。その翌日に香港に向かい 4 日後に帰国。この香港出張 4 日間の間に、香港・マカオ・珠海（中国本土）を往復します。香港から帰った翌日には、空路で広島へ向かいここで 1 泊し、翌日は大阪泊、更に翌日名古屋で仕事を終えて最終近くの新幹線で帰宅します。

翌日は東京から動きませんが、その翌日は朝一番で愛知県の某所にて経営指導を行い、午後には東京に戻り 2 件の会議に参加します。なんとこれで未だ 12 月の 14 日、金曜日です。自分で原稿を書いていて驚きます。

通常の月はこれほどではありませんが、このような生活を 20 年ほど続けています。中でも海外出張を振り返ると、年間 4 回か 5 回が出張の平均回数ですから合計 80 回以上ということになります。

私の出張は、私が主催する研究会の会員（税理士、弁護士等のコンサルタント）を同道する海外視察が大半です。

9.11（2001 年 9 月 11 日アメリカ同時多発テロ）までは米国の会計事務所や日経企業の視察が中心でしたが、この事件以降は欧州やアジアへ行き先を変更しました。近時はアジアの成長が著しく、行き先は中国やベトナムなどが多くなっています。

毎回、世間で“先生”と呼ばれる人を 5 人から 15 人ほど帯同しますのでエピソードには事欠きませんが、毎回のようにハプニングやトラブルが発生しましたが、参加した方の個人情報や特定な方の人格に触れることになりかねませんので、今回は止めておき、自身のことを思い出してみます。

海外出張というか飛行機による旅に係ることで「不思議だな」と思うことがあります。私の結婚は 25 歳の時でした。結婚した 1978 年は高度成長の入り口の時期で、今では TV コマーシャルをゴールド

ンタイムに流すような会社のサラリーマンでしたが、当時は社歴も浅く少ない給料での家計でした。

それでも結婚を記念してプレゼントを夫婦で贈りあうことにして、2 人で買い物に出かけました。出かけた先は、当然のように新宿の丸井でした。今ではファッションリーダーの丸井デパートですが、当時は「月賦の丸井」としてあまり豊かでない若者の買い物先でした。

その丸井で妻から「贈り物は何がいいですか？」と問われ、「本草製のフライト（パイロット）ケース」を指さしました。値段は、それほど高くなかったとおぼろげに記憶していますが、カバンを選んだ理由が今考えても変なのです。

当時は、国内線であっても飛行機に乗った経験もなく、その予定もなかったのです。当時の仕事はコンピュータのオペレータという出張のない部署でした。それなのに妻に対し「何か飛行機に乗って世界中を飛び回るような気がするの・・・」と贈り物の選定理由を開示したのでした。本心は、カッコ良さへの憧れからパイロットが持つカバンを手にしたかったのかもしれませんが。

しかし、それから 6 ヶ月後に「不思議な」社命が下りました。会長がドイツ商工会議所で講演をする。これに合わせ、社長が有力な得意先を会長のドイツ講演とドイツ商工会議所等視察に招待する。この一行に同道せよ、というものでした。期間は 15 日間、2 回ある土日は観光しても良いというものだったと記憶しています。

生まれて初めて乗った飛行機が、ヨーロッパ行の国際線で航空会社もドイツのルフトハンザと聞かされ、語学の不安と慣れないことの連続で大いに緊張したものです。また当時、海外旅行という「壮行会」が行われたり、知人から「餞別」を貰えたりしたビックイベントだったのです。実際、緊張と失敗の多い旅でしたが、それも今では良い思い出です。

↓ シンガポール・マリナーベイサンズ（そんなレストランがあります）



## 書道三昧の日々



昭 35 年卒

鈴木 昇

東京都東久留米市在住。板倉町（旧伊奈良村板倉）出身

退職後、書道三昧の日々が続いている。現在日本書道普及連盟に所属し、師範試験に合格、雅号「龍道」を戴いた。

館林高校東京同窓会報第 24 号（平成 22 年 2 月発行）に「60 歳の手習い—書道のすすめ—」を投稿したが、この拙文を見た 40 年卒の横山英和氏から、書道を習いたいとの相談があり、私が所属する連盟

の東久留米支部を紹介した。

爾来、横山氏は毎週川口の自宅から同支部に通ってこられ、一緒に書道を楽しみながら腕を磨いている。当同窓会が取り持ったご縁であり、私も心強い仲間が出来て喜んでいる。

当同窓会が、いろいろな分野でこんなきっかけの場になればと願っている。

また、古希を迎えたのを契機に昨年から水墨画を習い始めた。書道に通じるものもあり、その道は深く、はまりつつある。

その他、学生サークル（早稲田大学竹友会＝尺八、琴、三弦の会）以来の尺八（尺八師範・神如導師より雅号「如萌」を戴いている）は、細々ながら続けている。

学生演奏会にその他大勢の一人として、時に賛助出演を依頼されると、その日に向けて練習する程度だがまだ音は出る。

ゴルフは健康維持のため月に 2～3 回はコースに出ている。クラブの月例競技会には毎月参加するように心がけている。

とにかく、体力、知力は衰える一方だが、気力だけは維持したいと思っている。

### ゴルフ部会

## 平均年齢 81 歳！ 元氣者の集い

ゴルフ部会（中村茂八郎部会長）は、第 32 回親睦コンペを平成 24 年 11 月 1 日千葉県野田市・紫カントリークラブあやめ 36（EAST コース）を会場に、新ペリアルールを適用して開催した。当初 19 名のエントリーがあったが、直前に 2 名の方が体調不良などから不参加となり、17 名のコンペとなった。

会場の EAST コースは、各ホールとも歴史を物語る太い松の木に囲まれ、手入れの行き届いたフェアウエイは微妙なアンジュレーションが、そしてグリーンは砲台になっているチャレンジし甲斐のある林間コース。

前年に引き続いて同じコースでの開催となったのは、参加しているメンバーから、再度挑戦したいという希望が寄せられていたことと、予約が容易なパブ

リックコースということからだった。

参加者は、大先輩の 92 歳の新里武男氏をはじめとするゴルフ大好き人間の集まり（平均年齢 81 歳）だが、近年は年に 1、2 回のプレイという方からほぼ毎週プレイの方と様々であった。

好天に恵まれたラウンドは、和気藹々、同期生が一緒のパー

ティでは、勝負を度外視、高校生の昔に戻ったように掛け合い漫才調のパーティも見られた。

優勝は三田成男氏（昭和 27 年卒）、準優勝は荒川磯雄氏（昭和 28 年卒）、第 3 位は小林啓八氏（昭和 28 年卒）となった。

プレイ後の 19 番ホールは、お互いのプレイ振りの講評や近況報告と盛りだくさんの話題で盛り上がり、年代を超えたひと時を過ごし、次回の再開を約して散会した。



## 読書について



昭和 36 年卒  
相澤 建志

東京都町田市在住。  
邑楽町（旧高島村出身）

読書は、歴史、地理、風俗を知り、人の行動を識ることができるものであると思います。だから、他人に勧め、自分も好んでいます。

さて、私は高校生のころ、即ち昭和 30 年代という大昔ですが、次々と新しい本が買えるわけもなく、兄たちが残した世界あるいは日本文学全集のようなものから、女の一生、狭き門、人生劇場、宮本武蔵、太平記、水滸伝、三国志などを読みました。

当時、高校で、亀井勝一郎という人だったと思いますが、「愛の無常について」という講演があり、いたく感動したのを覚えています。

卒業後に、モームの「太平洋」という岩波文庫の短編集を読んで、無常観に感動して、これが世界共

通の感情であることをやっとながら気がついた、という思ひかきでした。

試験勉強中はやめました。就職してから再び読み始めたときは、司馬遼太郎が主でした。忍者物はあまり読みませんでしたが「坂の上の雲」や「翔ぶが如く」、「花神」など繰り返し読みました。年をとって来て、池波正太郎、宮城谷昌光など時代小説、歴史小説にはまりました。宮城谷昌光の中国古代の榮枯盛衰を物語る中にちらばっている故事や文明、人の情動など、興味がつきません。

古代物と言えば、「ローマ人の物語」も面白い表現で、人の考えることに皮肉をきかせています。

その後は、墮落して、佐伯泰英の時代小説にはまり、今は三浦しをん、百田尚樹、池井戸潤、東野圭吾など、乱読です。

しかし、考えるまでもなく、読書が自分の人格形成に役立ったことは間違いありません。おそらく、司馬さんの「坂の上の雲」などは日本人の人格形成に影響したと思います。

司馬さんの「明治という国家」に出てくる明治時代の日本人の純粹さは輝いています。多くの人が感動したはずで

そして、現在、我々日本人は何を目指して、どこに行こうとしているのかわからない混沌のなかにいると思います。政治やスポーツの世界にスーパーヒーローが居ないことと、同様に作家の中にも居ないことが、その一つの原因ではないかと、密かに考えています。

### 編集後記

第 27 号会報を無事にお手元にお届けできました。

この会報は、2,000 部制作しています。そして、東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城など首都圏在住の館高卒業生 1,700 名に配布するとともに、今春の新卒業生 252 名の手元にもお届けします。

一昨年から実施している新卒業生への寄贈は、様々な年代の多くの先輩達が、多分野で活躍していることを知らせ、時には若い人達の応援団（東京同窓会）となれることをお知らせする意味があり、評価いただいております。

しかし、一方で会報制作は、常に二つの課題で悩んでいます。一つは、会員の皆さんの動静をお伝えする誌面作りです。会員諸氏から入手できる情報が少ないのが悩みです。世代を超えた会員間の交流の機会が少なく、毎号誌面

に反映させるのに苦労しています。

もう一つは、製作費に余裕がないことです。本会の運営資金が大変逼迫していることから、思うような企画が推進できないでいます。年会費の未納入者が多く、この会報を製作すると他の活動を行う資金が不足しているのが現実です。総会開催通知に振込用紙を同封して、次年度の年会費納入をお願いしていますが、会員（会報送付先）の 1 割程度しか送金いただけていません。未納の方は本号 9 ページ下の告知に従って、ぜひ送金いただきたい。

未納かどうかの確認、および会報を読んだ感想、意見、提案、会員消息などの通知等については、下記へご連絡ください。

連絡先：東京同窓会事務局  
谷田部 和之  
FAX 048-974-6680  
Eメール kyatabe@tcet.ne.jp

### ☆

昨年 6 月に館林高校、桐生高校、太田高校の東毛地区 3 校首都圏同窓会の交流会が初の試みとして行われました。各校 10 名による会で、それぞれの活動状況等に付いての意見交換を行いました。出席者は初対面の人が多かったにも拘らず仕事、友人、親戚などで共通の話題があり、楽しい会となりました。今後は、単なる懇親会以上の意義ある会を目指して活動をしていくことを確認しました。具体的な活動はこれからですが、積極的に参加いただくことを期待します。

### 平成 25 年 同窓会ゴルフコンペ

期日 平成 25 年 5 月 8 日（水）  
会場 板倉ゴルフ場  
※参加申し込みは下記へご連絡ください。案内状を送ります。  
申込先 館林高校同窓会事務局  
〒374-0041 館林市富士原町 1241